

2020年度 第8回 ライフステージ事例検討会 報告書	
日時	2021年2月2日(火) 17時45分～19時00分
開催施設 参加者数	金沢大学0名、富山大学0名、福井大学3名、石川県立看護大学6名、信州大学2名、 金沢赤十字病院3名、石川県立中央病院6名、公立能登総合病院0名、恵寿総合病院0名、金沢市立病院4名、 浅ノ川総合病院0名、小松市民病院4名、 富山市民病院2名、富山県立中央病院0名、市立砺波総合病院0名、金沢医科大学氷見市民病院0名、 黒部市民病院6名、富山赤十字病院2名、富山労災病院2名、 長野赤十字病院4名、諏訪赤十字病院4名、福井県立病院5名 会場参加 計53名 その他 個別のオンライン参加 計50名 合計103名
テーマ	「血液がんと心不全を合併し、疼痛緩和に難渋した事例」
発表者	富山赤十字病院 村上 真由美さん
【意見交換内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・疼痛の原因、睡眠状況、疼痛への反応、本人の人生観、痛みの評価、スタッフでの共有の仕方について質疑応答があった。 ・意思疎通の取れない患者の痛みの理解として「心不全発症前までの痛みの状況やそれに対する関わり、病状悪化時の価値観等、その人にとっての痛みの体験を知ることや見出すことも一案である。同じ病院であればカルテの記録に、治療時に訴えていた痛みや痛みへの対処等が残っていないか。外来治療時の痛みの反応やコミュニケーションの取り方の特徴をみることで、現在の痛みへの反応を捉える手がかりになるのではないか」との意見があった。 ・患者の痛みの把握方法として「呼吸状態(回数や一回換気量)から痛みの評価を行うのはどうか」との意見があった。 ・心不全が併存するがん患者への対応、痛みの評価として「重症心不全でないが、循環器病棟入院の人はがん患者のスクリーニングを使用し、苦痛の点数が高い人は他職種カンファを行っている。」とのことであった。痛みの評価がしにくい時の実践上の工夫については、「ICUの心不全カンファにPCU看護師も同席し行ったことがある。その際、苦痛を取るためのケアを追加するという視点だけでなく、苦痛のある処置を減らす、不快なケアを減らすという視点も重要だ」という意見がでていた」という意見があった。
ミニレクチャー	「がん性疼痛を再考する - 私たちにできること - 」